

季節の室礼

季節を盛る 言葉を盛る 心を盛る

「室礼^{しつらい}」とは一年の節目に、また人生の節目節目に“季節を盛る”“言葉を盛る”“心を盛る”ことを言います。行事とは行うことであり、先人の霊を招き、客人を招き、感謝の心を供すること。

その時々季節にあわせて野菜や果物、花などを盛って、もてなしを形にし、心を込めて表します。



写真：安井進

師走（冬至・年末供）

冬至を境に翌日から少しずつ日が長くなることから、この日に「一陽来復」を祝います。

冬至は陰と陽の境目にあたり、

悪いことがあっても必ず陽に戻ると考えます。

12個のお餅には、稲や作物の実りへの感謝を込め、

1年12か月を振り返り、新たな年の運を願うのです。

冬至に南瓜^{かぼちゃ}を食べ、

ゆず湯に入る習慣は現代にも続いています。

黄色と赤は厄除けの色であると同時に、

栄養豊富な南瓜や体を温める小豆を摂り、

ゆず湯で血行を良くして、

物心両面から無病息災を願うのです。

受講の感想

山本先生から「一年を振り返りながら室礼をしてみてください」とお話がありました。私にとって今年はずいぶん学びの多い一年でした。月1回、室礼三千の基礎科教室で季節の行事や盛りものを学び、季節をより身近に感じたり、日本古来の行事に込められた意味や昔の人の想いに、少しずつですが触れられた感じがします。12月で基礎科教室は修了ですが、まだ入口に立っただけと感じ、この奥の深い世界をもっと勉強したいと強く思い、続けて専科教室に通うことにしました。新年号からの誌面では、私の専科教室での体験記に加え、日本在住10年のアメリカ人ハローウ氏から見た室礼を、協同でお伝えしていく予定です。（熊丸梨奈）



山本三千子先生の著書：「室礼おりおり」(NHK出版)、「暮らしの室礼十二か月」(淡交社)、「[四季の行事]のおもてなし」(PHPエル新書)ほか。

提供：室礼三千（しつらいさんぜん）

東京都杉並区浜田山3-16-5 Tel 03-3304-7020（火～土曜日午前10時～午後5時／日・月曜定休日）●体験教室もあります